

中学校音楽

指導のポイント

日々の授業において、指導事項と共通事項の「明確化」、「焦点化」、「具体化」を図り、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育成しましょう。

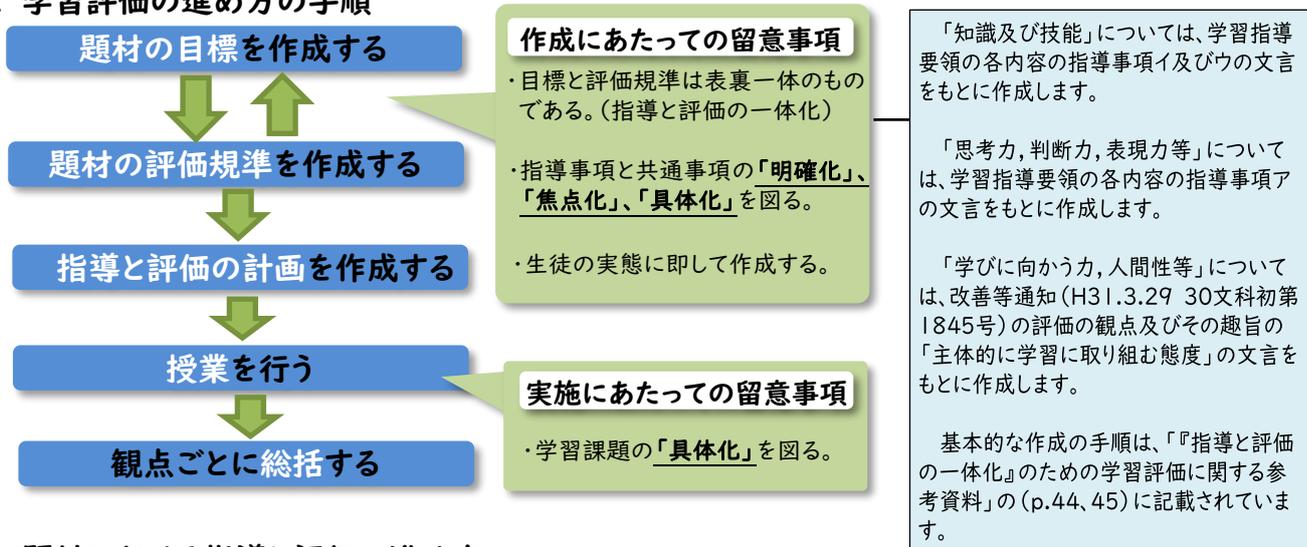
評価のポイント

指導事項と共通事項の「明確化」、「焦点化」、「具体化」を図ることにより、生徒が資質・能力を身に付けている具体の姿（記述や発言、技能の状況等）を見取りましょう。

1 学習指導要領の目標と内容における資質・能力の系統立て

資質・能力	知識及び技能		思考力、判断力、 表現力等	学びに向かう力、 人間性等
	知識	技能		
教科の目標	(1)		(2)	(3)
学年の目標	(1)		(2)	(3)
内容	表現	イ	ウ	ア
	鑑賞	イ	—	ア
	[共通事項]	イ	—	ア

2 学習評価の進め方の手順



3 題材における指導と評価の進め方

【事例】 第1学年 鑑賞 「春(ヴィヴァルディ作曲)」
題材名 「『春』の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って聴き、情景を想像しながら音楽のよさや美しさを味わおう」

□題材の目標

- (1) 「春」の曲想とそれを生み出す要素やリトルネッロ形式との関わりについて理解する。→ 指導事項イの(ア)
- (2) 「春」の音色、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。→ 指導事項アの(ア)、共通事項における思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素「音色」、「強弱」
- (3) 「春」の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って聴き、情景を想像しながら音楽のよさや美しさを味わうことに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に「春」の鑑賞の学習活動に取り組む(とともに、西洋の弦楽合奏に親しむ)。→ 題材名+評価の観点及びその趣旨

STEP 1

資質・能力の3つの柱に沿って作成します。どの指導事項と共通事項のどの部分を取り扱うのか、しっかりとつことが「**明確化**」です。

(3)は、前半に題材の学習で興味・関心をもたせたい事柄を記載し、後半は評価の観点及びその趣旨の「**主体的に学習に取り組む態度**」の文言をもとに設定しました。文末()内の感性や思いやりなどの観点別評価や評定には示しきれない部分を加えてもよいです。

□題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知①「春」の曲想とそれを生み出す音色、強弱との関わりについて理解している。</p> <p>知②「春」の曲想とリトルネツロ形式との関わりについて理解している。</p>	<p>「春」の音色、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p>	<p>「春」の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って聴き、情景を想像しながら音楽のよさや美しさを味わうことに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に「春」の鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

STEP 2

「知識・技能」の観点について、鑑賞領域は、技能（「～身に付けている」）の評価規準を設定せず、知識（「～理解している」）のみとなります。

「知識」に関わる指導事項アの(ア)には複数の指導内容がありますが、本時ほどの指導内容について学習するかを「焦点化」します。例えば、本題材では2単位時間に分けて指導します。

STEP 3

絞り込んだ指導事項について、生徒や教師が、何を学習する（させる）か分かるように具体的にかみ砕くことが「具体化」です。

□指導と評価の計画

時	◆学習課題 ○学習活動	知・技	思	態
		〈 〉内は評価方法		
1	◆弦楽器の音色と強弱による場面の変化を感じ取ろう。	知① 〈学習シート〉	思 〈観察、学習シート〉	態
	○ソネットを伏せて「春」の各場面を聴かせ、弦楽器の音色と強弱による場面の変化をよりどころとして、どの場面がどのソネットなのかを予想する。場面とソネットを確認しつつ、知覚・感受したことを学習シートに記入する。			
2	◆音色、強弱、形式をよりどころとして感じ取った内容をもとに、曲のよさを説明しよう。	知② 〈学習シート〉	態 〈観察、学習シート〉	態
	○場面の变化とリトルネツロ形式の関わりについて学習する。また、形式及び前時に知覚・感受した内容をもとに、根拠をもって「春」のよさを言葉で説明するなどして聴き深める。			

POINT②

○態における評価場面の精選

日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとめごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要である。

本題材では、第2時に該当するが、第1時も評価をしないということではない。

STEP 4

本時の学習課題についても「具体化」します。「具体化」を図ることで、本時のねらいを教師と生徒で共有することに繋がります。教師は、生徒に何を学ばせ、どんな力を身に付けさせるのかを具体的にもちましましょう。

また、学習課題に対して、分かったこと、できるようになったことを生徒自身に言わせたり書かせたりしましょう。

POINT①

OB と判断する状況例（例：思の場合）

聴き比べた場面について、音色、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じたことについて、話したり書いたりしている。

【概ね満足できる記述例(B)】

この場面は、ヴァイオリンの強く鋭い音が少し明るめな感じを、また、コントラバスの力強い低音が暗い感じを表している。春の雷の様子が伝わってくる。

OA と判断する状況例（例：思の場合）

聴き比べた場面について、音色、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じて、それらの関わりについて考えた内容を話したり書いたりしている。

【十分満足できる記述例(A)】

この場面は、前後の場面に比べて音が強めである。ヴァイオリンの強めだが鋭く緊張感のある音がピカッと光る稲妻を、また、コントラバスの力強い重低音がゴロゴロ鳴っている雷鳴や黒い雲の様子を表している。この2つの楽器が合わさることで、「もうすぐ春が来るよ」と言うように雷が鳴り響く情景が伝わってくる。

※併せて、【努力を要する状況(C)】への手立てを考える。例えば、知覚・感受ができていない生徒に対しては、音色と強弱に視点をあてて友達と感じたことを交流させるなどの手立てが考えられる。

STEP 5

生徒が実現している姿（記述や発言、技能の状況等）を教師自身がもつことも大切です。